

国語 3 俳句を創作する

3

川口さんは、「言葉」をテーマに俳句を創作しています。次は、川口さんが「創作」している俳句とその俳句の□に入れた「言葉の候補」を、川口さんが見ている「辞典の記述」です。あなたなら「言葉の候補」の中のどの言葉を選みますか。AからCの中から一つ選び「言葉の候補」の中のとどの言葉を選んでみましょう。それを選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたって書いてください。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり空白に書き加えたりしても構いません。

【創作している俳句】

卒業にこぼれる涙
と

【辞典の記述】

【言葉の候補】

A
ほろほろ

C
ぽろぽろ

ぼろぼろ ① 涙や葉、花びらといった小さい、軽いものが、続いてこぼれ落ちたり崩れたりする様子。② 物がひどく破れたり崩れたりした状態の様子。
 ぼろぼろ ① 涙や小さい粒状のもののながれが、一粒ずつ続
 けてこぼれ落ちる様子。② ひとかまよりになつていた
 のものが水分を失つて、ばらばらになる様子。

条件1 選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書くこと。

条件2 選んだ「言葉の候補」を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを、条件1で取り上げた意味をもとに具体的に書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

←選んだ【言葉の候補】を塗りつぶしなさい。

[illegible]

1. 出題の趣旨

- ・ 自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くこと

平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査における学校質問紙調査では、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」という質問に「よくしている」、「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした学校の割合は、これまでに最も高い94.9%であった。国語科においても、各領域の指導について、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、学習指導要領の内容の(2)に示された言語活動例などを通した指導が全国で行われていると考えられる。しかし、例えば「平成31年度（令和元年度）【中学校】報告書」では、「書くこと」について、取り出した情報を「自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書くことに課題がある」（P. 8）としている。様々な言語活動を通した学習の中では、文章を書く目的や意図をより意識し、読み手に分かりやすく書くように指導する必要がある。

本問では、これらの課題を踏まえて、「卒業」をテーマに俳句を創作する場面を設定し、第2学年「B 書くこと」(1)ウの「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」の指導事項について出題した。俳句に用いる言葉を複数の候補の中から選び、その言葉を選んだ理由を書くことを求めている。

2. 調査問題の活用に当たって

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

ウ 事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。 《記述》

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 B 書くこと

ア 表現の仕方を工夫して，詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。

〔第2学年〕 B 書くこと

イ 多様な考えができる事柄について，立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

（1）言語活動を通じた学習指導の工夫について

- 第2学年「B 書くこと」(1)ウについて，表現の仕方を工夫して，詩歌を作ったり物語などを書いたりする言語活動を通して指導する際には，これまで学習してきたことも参考にしながら，様々な言葉や表現を工夫して書くように指導することが大切である。その際，第2学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ)との関連を図り，抽象的な概念を表す語句，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，語感を磨き語彙を豊かにするように指導することも有効である。

多様な考えができる事柄について，立場を決めて意見を述べる文章を書く言語活動を通して指導する際には，どのような事柄についてどのような意見を持ち，どのような論の展開で記述するかを考え，論点について賛成か反対かなど自分の立場を決め，自分の考えの中心や主張を明確にして書くように指導することが大切である。

- 指導に当たっては，以下のものも参考になる。
 - ・ 平成22年度【中学校】授業アイディア例 P. 2 「相手に応じた適切な表現で案内文を書くことができるようにする。」
 - ・ 平成22年度【中学校】報告書 P. 136 「相手に応じた適切な表現で案内文を書くことができるようにする。」
 - ・ 平成23年度【中学校】授業アイディア例 P. 1～P. 2 「募集要項に基づいて，応募された標語を批評する文章を書く。」
 - ・ 4年間のまとめ【中学校編】 P. 94～P. 95 「募集要項に基づいて，応募された標語を批評する文章を書く。」
 - ・ 平成24年度【中学校】報告書 P. 199 「資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び，伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことができるようにする。」
 - ・ 平成25年度【中学校】授業アイディア例 P. 11～P. 12 「星新一の作品を読んで，感想交流会を開こう」
 - ・ 平成25年度【中学校】授業アイディア例 P. 13～P. 14 「合唱コンクール必勝法を伝えるポスターを書く」
 - ・ 平成26年度【中学校】授業アイディア例 P. 11～P. 12 「説明的な文章を読んで，質問に答えよう」
 - ・ 平成27年度【中学校】授業アイディア例 P. 3 「問合せのメールに回答する」
 - ・ 平成28年度【中学校】授業アイディア例 P. 3 「要望する文章を書こう」

- ・ 平成28年度【中学校】授業アイデア例 P. 5～P. 6 「係の活動への協力を呼びかけるちらしを作る」
- ・ 平成31年度【中学校】授業アイデア例 P. 7～P. 8 「読み手を意識しながら、意見文を書く」
- ・ 言語活動事例集【中学校版】 P. 21～P. 22 「学校からの『お知らせ』を書き換えよう」
- ・ 言語活動事例集【中学校版】 P. 41～P. 42 「高等学校のパンフレットを批評する文章を書こう」

（２）授業アイデア例について

- **授業アイデア例Ⅰ**では、「卒業」をテーマに俳句を創作するという本問の場面設定を活用した授業アイデア例を示した。俳句に用いる言葉を「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぽろぽろ」の中から選び、その言葉を選んだ理由を書いたり、書いた文章をグループで交流したりすることを通して、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書く力を身に付けることをねらいとする。
- **授業アイデア例Ⅱ**では、各自で創作した短歌を紹介する文章を書くという言語活動を取り入れた授業アイデア例を示した。短歌に込めた自分の思いや、それを表現する上で工夫した点などについて文章に書き表したり、書いた文章をグループで交流したりすることを通して、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書く力を身に付けることをねらいとする。

3. 出典等

本問の【辞典の記述】は、浅野鶴子・金田一春彦『擬音語・擬態語辞典』（1978年4月 角川書店）、阿刀田稔子・星野和子『正しい意味と用法がすぐわかる 擬音語・擬態語使い方辞典 第2版』（1995年10月 創拓社）、山口仲美編『擬音語・擬態語辞典』（2015年5月 講談社）などを参考にした。

授業アイデア例Ⅰ

【指導のねらい】

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書くことができるようにする。

【授業アイデア例】

教材

● 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語³

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぼろぼろ」の中から言葉を一つ選んで俳句を完成させ、その言葉を選んだ理由を書きましょう。書いた文章は、学級の他の人と交流します。

② 「ほろほろ」、「ぼろぼろ」、「ぼろぼろ」の三つの言葉の意味や用例を、本問にある【辞典の記述】や国語辞典を用いて確認する。

③ 「卒業にこぼれる涙 と」の空欄に入れる言葉を、三つの言葉の中から一つ選び、俳句を完成させる。

④ ③で完成させた俳句について、その言葉を選んだ理由を各自でノートに書く。

※ 生徒の実態等に即して、字数を指定することも考えられる。



自分が選んだ言葉について、どのような意味に着目したのかを、他の言葉の意味との違いが分かるように書きましょう。また、その言葉を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを書きましょう。

【Aさんが書いた文章】

小学校の卒業式の日、自分でも気付かないうちに涙が流れてきたことを表すには、どの言葉がふさわしいのかな。



Aさん

卒業に こぼれる涙
ほろほろと

私は、空欄に入れる言葉として「ほろほろ」を選びました。なぜこの言葉を選んだのかというと、「ほろほろ」には「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味があり、私が想像した情景が表現できると思ったからです。小学校を卒業したときのことです。六年間の喜びや悲しみがたくさん詰まった校舎が、振り返った私を笑顔で送り出してくれているように見えました。そのときに流れた涙が「ほろほろ」という感じだったのです。つまり、「ぼろぼろ」や「ぼろぼろ」ではなく、「ほろほろ」が、そのときの私の気持ちにぴったりだったので、この言葉を選びました。

第2時

⑤ ④で書いた文章をグループで交流する。

交流する際の観点の例

- どのような意味に着目してその言葉を選んだのかについて、他の言葉の意味との違いが分かるように書かれているか。
- その言葉を用いることでどのような情景や心情を表現できると考えたのかが書かれているか。
- 選んだ言葉と、その言葉を用いることで表現できると考えた情景や心情との関係が分かるように書かれているか。

など

【交流している場面の例】



Aさんが「ほろほろ」の「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目したことは分かりますが、三段落目に書かれている情景や心情とどのように関係するかが分かりづらいので、もう少し説明を加えた方がよいと思います。

「ほろほろ」や「ぼろぼろ」を選ばなかった理由についても触れると、「ほろほろ」を選んだ理由がより明確に伝わるのではないのでしょうか。



⑥ ⑤で交流した内容を踏まえ、必要に応じて、各自で文章を書き直す。

【Aさんが書き直した文章】 ※ 青字は、書き直した部分。

卒業にこぼれる涙
私は、空欄に入れる言葉として「ほろほろ」を選びました。なぜこの言葉を選んだのかというと、「ほろほろ」には「音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味があり、涙が自然に流れる様子を表現できると思ったからです。小学校を卒業したときのことです。六年間の喜びや悲しみがたくさん詰まった校舎が、振り返った私を笑顔で送り出してくれているように見えました。私は、お世話になった方々への感謝の思いと、これからに向けての決意が胸の中に広がるのを感じました。そのときの涙の様子をこの句で表現したいと思いました。

つまり、大粒で量が多い印象の「ぼろぼろ」や乾いた感じがする「ほろほろ」ではなく、心からしみ出るような涙の様子を表現できる「ほろほろ」が、そのときの私の気持ちにぴったりだったので、この言葉を選びました。

⑦ 学習を振り返る。

【活用のポイント】

- 本授業アイディア例は、第3学年「B 書くこと」(1)イを指導することを想定した学習の流れを示している。本問で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、④に示したように、これまでに学習したことを想起し、目的に応じて分かりやすい説明や具体例を加えて書くように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、④～⑥で、初めに自分の考えを述べ、根拠となる辞書の意味などを示し、自分の考えの妥当性を示す書き方や、根拠となる辞書の意味などを初めに示し、自分の考えの妥当性へと結び付ける書き方などができているかについて、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で指導するに当たっては、④を中心に授業を行うとよい。その際、第1学年「B 書くこと」(1)ウの指導事項を取り上げ、読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるような書き方について考えるように指導し、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、本問で取り上げた指導事項について指導する場合には、④を中心に授業を行い、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。

授業アイディア例Ⅱ

【指導のねらい】

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えるとともに、論理の展開を工夫して書くことができるようにする。

【授業アイディア例】

学習の流れ

第1時、第2時

① 学習の見通しをもつ。



教師

「秋」をテーマに各自で短歌を創作します。創作した短歌は、紹介する文章を添えて教室に掲示します。紹介する文章を書く際には、短歌にどのような思いを込めたのかや、それを表現するためにどのような工夫をしたのかが伝わるように書きましょう。

② 作成する掲示物についてのイメージをもつ。

※ 掲示物の割り付けや、教師が事前に作成した掲示物の例を示すことも考えられる。

【掲示物の割り付けの例】

写真やイラストなど	創作した短歌
短歌を紹介する文章	

③ 「秋」をテーマに各自で短歌を創作する。

※ これまでの学習で創作した短歌を活用することも考えられる。

④ 短歌を紹介する文章について、書く際の観点を全体で確認する。

書く際の観点的例

<内容について>

- 短歌の背景にある感動の中心
- 短歌に込めた自分の思い

<表現について>

- 言葉の使い方の工夫
- 使用した表現の技法とその工夫

など

※ 生徒の実態等に即して、字数を指定することも考えられる。

⑤ ④で確認した観点に沿って、どのようなことを書くのかを各自でノートにメモする。

【生徒が書いたメモの例】

- 〈創作した短歌〉
少しづつ違うからこそ面白い
もみじの色も雲の形も
- 〈内容について〉
● 短歌の背景にある感動の中心
・ 落ち込んでいたときに見たもみじの葉一枚一枚の色や雲の形の違い。
● 短歌に込めた自分の思い
・ 他の人と比べて自分の悪い点ばかりを見つめるのではなく、よい点を見たい。
- 〈表現について〉
● 言葉の使い方の工夫
・ 「違うからこそ」というように「こそ」を用いて、物事に違いがあることの価値を強調した。
● 使用した表現の技法とその工夫
・ 上の句と下の句の部分に「倒置」を用いて、自分の思いを強調した。
・ 「もみじの色も雲の形も」と対句を用いて、それぞれの印象を強めるとともに、読んだときのリズムをよくした。

第3時、第4時

- ⑥ ⑤で作成したメモを基に、短歌を紹介する文章を各自で書く。
 ⑦ ⑥で書いた文章をグループで交流する。



短歌に込めた思いや、表現する上で工夫した点などについて、読み手に分かりやすい文章の構成で書くことができるかを交流しましょう。

【生徒が書いた文章の例】

私はその日、すっかり自信をなくしていました。授業でうまく発言できなかったり、部活動で思うような成果が出せなかったりと、何をやってもみんなのようにならずに、向かっていくと、ふと、色づき始めたもみじの美しさが目に飛び込んできました。よく見ると、同じもみじの葉でも一枚ずつ色が違って、それぞれの違いが美しいと感じました。さらに、木々の間から見える空に浮かぶ雲の形も、二つとして同じものはないことに改めて気が付いたのです。自分には自分のよさがきつとあると思うことができました。

その感動を短歌で表現するに当たって、「倒置」を用いて上の句で自分の思いや考えを述べました。また、「もみじの色も雲の形も」と対句を用いて、それぞれの印象を強めるとともに、読んだときのリズムがよくなるようにしました。さらに、「違うからこそ」というように「こそ」を用いて、物事に違いがあることの価値を強調しました。

これからの生活の中で、この短歌を思い出して元気になる人がいたらうれしいです。

【交流している場面の例】

一見、短歌の内容とは関係がない書き出しだと感じましたが、読み手の興味を引き付ける書き方でよいと思います。



短歌に込めた思いと目の前の情景との関係が丁寧に書かれていて、書き手の思いに共感することができました。また、表現の技法を使用した意図がよく理解できました。

- ⑧ ⑦の交流を踏まえ、書いた文章を必要に応じて修正し、掲示物を完成させる。
 ⑨ 学習を振り返る。

【活用のポイント】

- 本授業アイディア例は、第3学年「B 書くこと」(1)イを指導することを想定した学習の流れを示している。本問で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、④～⑥に示したように、これまでに学習したことを想起し、分かりやすい説明や具体例を加えて書くように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、④～⑧で、自分の考えの妥当性を示すための論理の展開の工夫ができているかについて、ノートに書いた内容やグループでの交流の様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で指導するに当たっては、④～⑥を中心に授業を行うとよい。その際、第1学年「B 書くこと」(1)ウの指導事項を取り上げ、自分の思いを表現するために、なぜそのような表現上の工夫をしたのかが明確になるような書き方について考えるように指導し、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、本問で取り上げた指導事項について指導する場合には、④～⑥を中心に授業を行い、ノートに書いた内容などを基にして評価することが考えられる。